あおもり民医連

2021年9月17日発行
【6面オールカラー】発行部数2,890部
第295号

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森県青森市中央１丁目6-8 3F
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
URL http://aomin.jp/　e-mail info@aomin.jp

コロナ禍で、「お互いの顔が見える」ことを意識して

第五十一回医師総会

七月三十一日、第五十一回医師総会を開催し、医師五十二名（事前録画含む）、多職種三十八名、医学生二名、計九十二名が参加しました。Ｚｏｏｍでの開催は前回に続き二回目です。

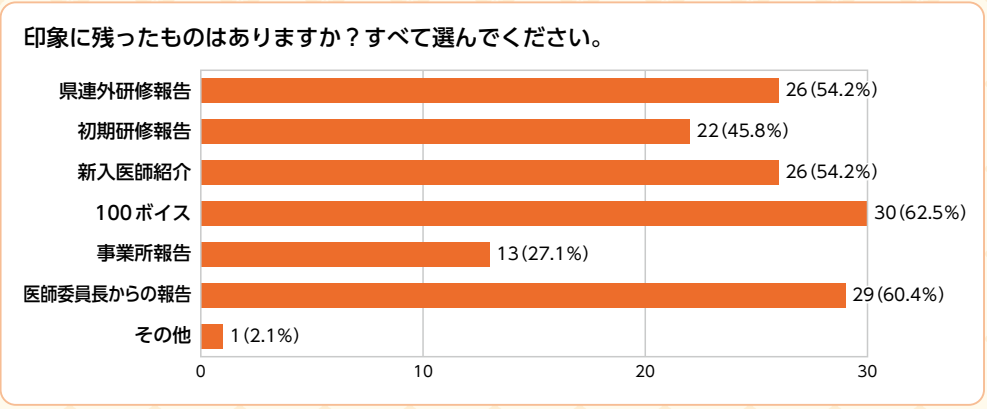
今総会は、新入医師の紹介、県連外研修の報告、各事業所からの報告、「県連全医師〝100ボイス〟」、医師政策づくりに取り組んでいる報告、と盛りだくさんで、全体で四時間の長丁場となりました。

長引くコロナ禍で、集まることも交流することもできない中、今年度六名の新入医師を迎え、県連の常勤医師は百四名となりました。各事業所で、どんな医師が、どんな思いを持って働いているのかを知る機会を設けたいと思い、「県連全医師〝100ボイス〟」に取り組みました。今回は十二名の医師と二名の奨学生に、自己紹介に加えて「あなたが大切にしていること」をテーマに発言いただきました。当日参加できない医師は、事前に録画したものを配信しました。100ボイスに対しては「普段話す機会のない医師の話が聞けた」「レジェンド医師の元気な姿と発言に民医連の歴史と土台を感じた」などの反響がありました。次回以降も継続して取り組む予定です。

県連の医師数は緩やかに増えていますが、一方で高齢化も進んでいます。現状を維持することも難しくなりつつある中で、医師委員会は「医師政策」づくりに着手しました。石田医師委員長は報告の中で、「我々の存在意義とは、存在し続けることそのもの。経済的・社会的に弱い立場の人を守ろうとする立場で医療をしていることが我々の特徴」と述べ、「そのために多くの後継者を獲得・養成することが必要だが、特に、内科・総合診療分野を担う医師を増やすことができなければ、県連全体としての存続は不可能。初期研修医のみなさんには、ぜひ内科・総合診療分野を選択してほしい」と呼びかけました。

（青森民医連／篠原奈緒）

▶アンケートより抜粋



結果報告

政治と社会に関する問題意識アンケート

期間 2021年7月2日(金)～7月26日(月)
※期間を延長しました

アンケート方法 指定のGoogleフォームにアクセスし回答

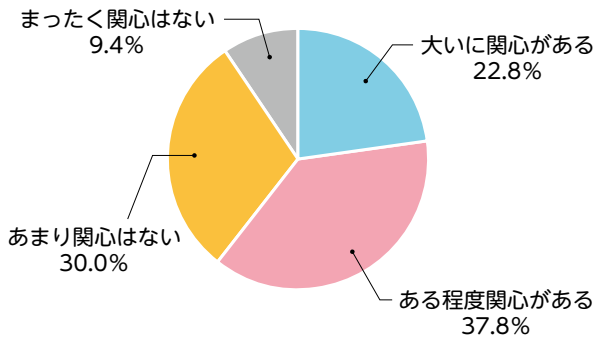
回答職員数 837人（回答率30.2%）

今回のアンケートは、民医連ではたらく全役職員が、政治と社会のありかたについてどのような問題意識を持っているのかを聞き、今後の社会保障、反核平和運動を進めるうえでの課題を明らかにし、民医連運動における新たな展望を切り開くことを目的に実施しました。一部となりますがアンケート結果をご報告します。ご回答頂きました皆様ご協力のほどありがとうございました。

(県連社保委員会／下舘大史)

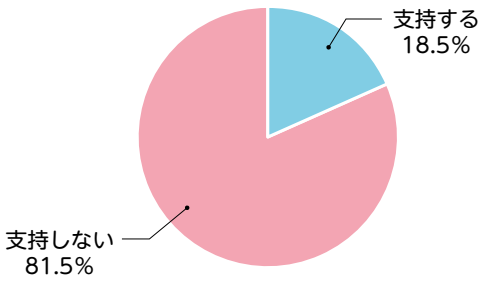
1 いまの衆議院議員の任期は今年10月21日までです。次の衆議院選挙にどの程度関心がありますか。

837件の回答



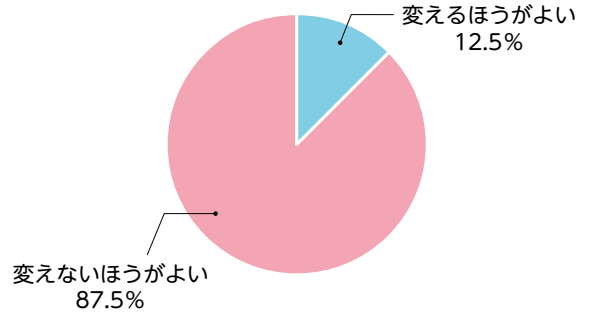
2 菅内閣を支持しますか。しませんか。

837件の回答



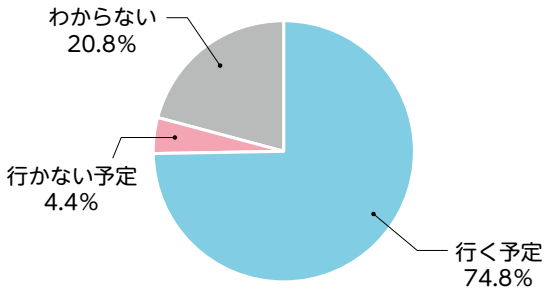
3 憲法第９条を変えるほうがよいと思いますか。変えないほうがよいと思いますか。

837件の回答



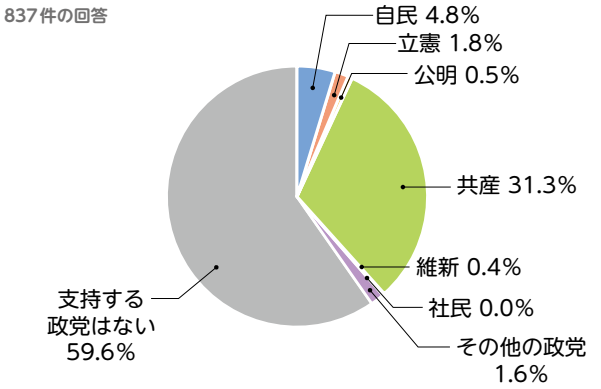
4 今年行われる総選挙について、現時点で投票に行く予定ですか。行かない予定ですか。

837件の回答



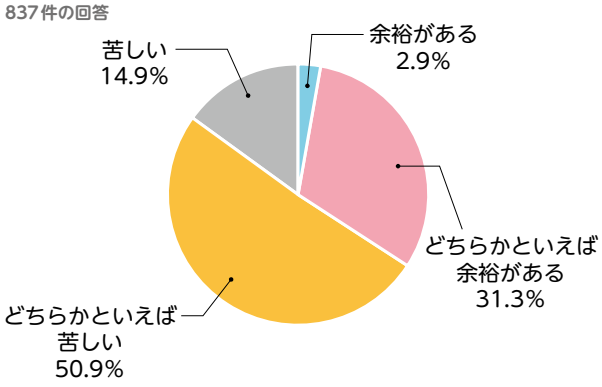
5 いま、どの政党を支持していますか。

837件の回答



6 いまの暮らし向きをどう感じていますか？

837件の回答



第34回 県連卒後症例発表会

七月十一日（日）、県連三年目の看護師計二十名が発表しました。看護師としての学びを振り返りながら、成長を感じる発表会になりました。

健生病院会場の様子

今年は、第三十四回目にして初めてＷｅｂでの開催となりました。青森県では新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大はない為、出来れば例年通り会場で開催したいというのが委員の気持でもありました。しかし、青森県内各地でのクラスター発生に伴い、感染拡大防止のためＷｅｂでの発表会となりました。昨今、会議や発表会、オンライン飲み会まで様々な用途で「Ｚｏｏｍ」が使用されています。それが日常になじんでいますが、まだまだＷｅｂ会議に慣れていない事もあり、委員の中でもＷｅｂ開催の決定後は不安なことだらけでした。恥ずかしながら「Ｚｏｏｍ」とは何か？という所から、定例の会議で講義を受け、本番に向けた練習も行いました。迎えた当日、パワーポイントのスライドが上手く出せなかったり、声が聞こえなかったりと、各分散会で様々なトラブルがありました。しかしホストを務めてくれた委員のバックアップにより、急なトラブルにも対応でき、無事に全員発表を終えることが出来ました。今後もＷｅｂ発表が主流になると思われます。今回の発表で浮き出た課題を振り返りながら次年度に向けて頑張っていければと思います。

例年とは違う発表形式で、発表者、講評者も戸惑った所もあると思います。しかし、どういう形式の発表になろうと、入職してからこれまでの成長を感じ取れることが出来る内容となっていました。卒後症例としての発表は終わりましたが、今後も青森県民医連の看護師として成長していけることを願っています。発表お疲れ様でした。（あおもり協立病院八階病棟／工藤文子）

開催 青森民医連 薬学生奨学生会議

7月3日(土) 14:00からオンラインでの薬学生奨学生会議を開催しました。県内外6名の奨学生が参加し、講師は県連薬学生小委員の 髙橋 沙衿 さん（ファルマ弘前薬局）が務めました。

学習前に「人権café ～子供の人権～」について意見交換しました。今、大学で勉強できていることは、「育つ権利」「守られる権利」などが尊重されているからだと、全員で再認識しました。

今回の学習テーマは多数の奨学生から希望があった「薬剤師が教える勉強のコツ　第二弾」でした。講師の髙橋薬剤師は、大学時代の経験を踏まえ実践して良かったことや、学んだことを維持するには日々の学習が大切ということを過去の資料や記憶力に関する研究データを元に、大変わかりやすく教えてくれました。

大学当時の学習ノートを見せてくださった髙橋さんは「このノートは自分のために書くノートであり、誰かに見せるノートではない自分の味方になってくれるノートなので、自分流の語呂合わせ、自分流の関連付け方などを書き込んで活用しました。」と説明されました。奨学生は、様々な勉強のコツを自分の物にしようと真剣に聞いていました。尚、今回奨学生会議に参加できなかった学生からも「ぜひ学習内容を知りたい！」との複数の声があり「青森民医連　YouTube」にて期間と閲覧を限定して配信することにしました（URLを知った方のみ観れる状態です）。今後も奨学生とともに学び深まる奨学生会議を目指します。

（青森民医連／山口理香子）

「北海道・東北地協 介護事業交流集会」

七月二日（金）北海道・東北地協　二〇二一年度介護事業交流集会がＺｏｏｍミーティングにより行われました。各県連から二百十二名の参加者（青森六十七名）がありました。

基調講演は、震災から十年の節目にあたり、福島県民医連・浜通り医療生協組織部の工藤史雄氏から「東日本大震災十年を迎えた福島から」をテーマに講演を頂きました。スーパーのお米コーナーでは、宮城・茨城・新潟産と表示しているお米はあるが、福島県産は「国内産ブレンド」として店頭に並んでいることや、同じ福島の中で被災地域による分断、線量の違い、世代による受け止め方の違い、津波被害と原発避難、賠償額の差などによって、家庭内、親戚同士、隣近所土のあらゆる場面に格差と分断が生じている事などが報告されていました。今福島では様々な形での復興がアピールされていますが、残念ながら住民の望みや地元雇用には繋がっておらず、帰還の動機付けにもならないことが報告されていました。改めて福島で起きていることを正しく知り、おかしなことは繰り返さないようにし、何よりも福島を忘れないことが重要だと学びました。次に各県連より指定報告があり活発な質疑応答がされていました。ＷＥＢによる初めての交流会でしたがとても充実した交流集会でした。

（青森保健生協　本部／髙橋千津子）

被爆者と共に核兵器のない平和で公正な世界を ～人類と地球の未来のために～

原水爆禁止2021年世界大会・ヒロシマデー集会について

八月六日、オンラインにて原水爆禁止二〇二一年世界大会が開催されました。講師にはアレクサンダー・クメント氏（オーストリア欧州統合外務省軍備管理不拡散局長、核兵器禁止条約第一回締約国会議議長）、松井一實氏（広島市長）、箕牧智之氏（日本被団協代表理事）、ベアトリス・フィン氏（核兵器廃絶国際キャンペーン事務局長）、カルロス・ウマーニャ氏（核戦争防止国際医師会議共同議長）、武本匡弘氏（環境・気候変動活動家）、目加田説子氏（地雷廃絶日本キャンペーン運営委員）、斉藤とも子氏（女優）、ロラン・ニベ氏（フランス平和運動全国書記）、パク・ハヨン氏（平和と統一を拓く人々）、佐久間邦彦氏（広島県被団協理事長）を迎え、「核兵器のない世界への共同」、「日本と世界、草の根の運動の交流」をテーマに講演が行われました。

同日、原水爆禁止二〇二一年世界大会、ヒロシマデー集会がオンラインで開かれました。ゲストスピーカーや被爆者の方々から貴重な講演をお聴きしました。核兵器禁止条約第一回締約国会議議長を務めるアレクサンダー・クメント大使の講演では、核兵器が戦争で使用された世界で唯一の国である日本にはオブザーバーとしての参加を期待していることをお話しされていました。日本はその歴史的な役割があるにもかかわらず、核保有国のアメリカの核の傘による安全保障に満足し、いまだ核兵器禁止条約に加盟していないという現状より、私は今の日本政府に対する不安や疑念が抱かれます。

日本被団協代表理事で被爆者の箕牧智之氏の講演では、原爆孤児や生後二～三年でその人生の幕を下ろした方々がいるという生々しい実際の過去の出来事をお話しされました。今現在も原水爆の影響で健康被害を受けている方や、その次世代にも渡って影響が出ているということに、核兵器廃絶の課題は過去から未来にかけて撤廃されるまで取り組まなければならない絶対の課題であると感じました。

（大野あけぼの薬局／原　友貴）

こちらの写真は「平和の波交流会」に参加した際の本部の様子です

全日本民医連

平和の波交流会に参加して

～自分の言葉や行動で伝えていく～

8月6日（金）全日本民医連平和の波交流会にZoomで参加しました。当日は、原水爆禁止世界大会参加している2名（ファルマ弘前薬局の小田桐由衣さんと中西茉季さん）に加え、若い職員が集まり大いに盛り上がりました。

若い職員が参加しました

学習企画では、原水爆禁止日本協議会常任理事の前川史郎氏より「核兵器のない平和で公正な社会のために」についてお話がありました。前川氏は「年々被爆者の高齢化が進み、生の声を聴く機会が減少しているが、そのような中でも被爆者の証言を多くの方に聞いてほしい」と訴えていました。

その他、広島・長崎からの指定報告や各地の取り組みの交流として、ファルマからも平和活動に関する報告を行いました。久しぶりにファルマレンジャーも登場し、楽しく参加できました。改めて、若い世代に原爆について語りついでいくためには、原水爆禁止世界大会に参加した人も、そうでない人も、話を聞いたのならそれを自分の言葉や行動で誰かに伝えていくことから始まるのではないかと思いました。

ファルマレンジャーポーズ

（ファルマ弘前薬局／須藤江利加）

9月 2021年9月 第17回理事会報告

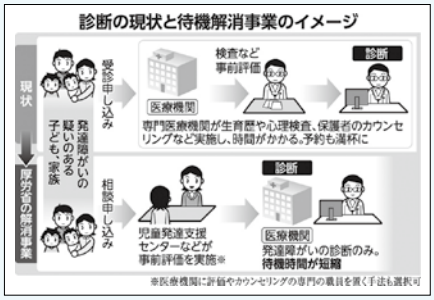
- >> 特別企画
  - 「来たる総選挙へ主権者として臨む」
- >> 全日本民医連理事会報告
- >> 決裁事項
  - 看護奨学生申請
  - 青森保健生協高橋千津子介護部長の理事会オブザーバー参加について
  - 県連薬局活動交流集会
- >> 協議事項
  - 下北豪雨災害　義援金の取り組みについて
  - 44期第3回評議員会参加報告
  - 新型コロナウイルス対応について
- >> 報告事項
  - 全日本民医連　通達・声明
  - 職員育成指針の意見集約状況
- >> 会務報告/各委員会・医師委員会報告

青森県 発達障害専門医療機関初診待機解消モデル事業

生協さくら病院 児童青年期精神科外来での取り組み

2019年10月に当院で「児童青年期精神科外来」を開設致しました。小山副院長をはじめ、公認心理師、看護師などのスタッフが一丸となり、10代～20代の“こころ問題”に対して、患者様やご家族に寄り添いながら日々の診療を行っています。更に、今年６月から新たに青森県モデル事業の実施医療機関として登録を行いました。児童の発達障害の診断にかかる初診待機が長期化している現状から、青森県の発達障害者支援センターと連携して診断のついていない子供に対して診察を行い、診断内容に応じて適した機関へ繋げていく事業となっています。

診療中の小山副院長



事業（診察）の主な流れ

❶受付後、身長・体重・血圧測定を行い、プレイルームへ誘導。
❷心理師はプレイルームで子供と遊びながら行動観察を行う。
❸医師は親と面談し、これまでの経緯や現状を確認する。
❹行動観察と心理発達検査の結果を踏まえて、親に診断名を伝える。

６月と７月に月１件のペースで診察を行いました。

症例－６月　５歳男児、外出先で走り回る、ダメが伝わらない等の行動

▶親に「ASD（自閉スペクトラム）」と告知。診断結果を受けて涙を流される。

症例－７月　６歳男児、言語表出の苦手、落ち着きがない等の行動

▶親に発達障害ではなく「脳症の後遺症」と告知。行動観察の中でASDやADHDの様な症状が見られたが、生育歴を確認すると１歳半時に40℃の高熱および痙攣を発症した事案が有り、前頭葉の委縮が見られていた。

事業開始からの２つの症例でしたが、「発達障害」を診断した症例と、診断しなかった症例となりました。診断をつけてしまうと児童の今後の人生において「発達障害」という診断結果を背負い続けていく事となるため、行動観察、生育歴を踏まえて慎重に判断していく必要が有ります。

児童青年期の開設以降、院内には児童や若い方の姿が多く見える様になり、診察の中で「将来、医師になりたい」「看護師になりたい」と話す子供たちがいます。“こころ問題”のケアを行いながら将来の夢に向かう子供たちを病院一丸となって今後もサポートして参ります。

（生協さくら病院／葛西直哉）

青森県社会保証推進協議会

第23回定期総会 開催

―初のオンラインでの定期総会―

コロナの影響を大きく受け、第二十五回青森県社会保障推進協議会（県社保協）総会は七月三十一日にZoomで開催されました。

講師 神奈川県自治労連 神田敏史氏

総会に先立ち、神奈川県自治労連の神田敏史氏の記念講演「第二期国保運営方針に見る国保制度の改革のねらい」で学習した後に総会を開催しました。改めて国保の奥深い内容を学習することができたとの感想が寄せられています。参加者数は記念講演が六十一名、総会は三十八名の参加でした。総会では大竹進会長より挨拶があり、コロナ禍における情勢の特徴について説明がありました。続いて事務局より、総括及び方針案の提案、決算・予算報告がありました。討論の時間では、三つの団体からそれぞれの活動内容や今後の取り組みについて報告がありました。その後、役員選出が行われ、今回は二名の役員交代がありました。二〇二〇年に続き二〇二一年はコロナの影響もあり例年のような活動には取り組めない事態も予想されます。しかし、このような時期だからこそ諸団体と共に、地域の医療・介護・福祉の充実をもとめる運動を続けていきたいと思います。

（青森民医連／津川文彦）

アピオ会場の様子

あおもり民医連 295号 発行日 2021.9.17 発行部数 2,890枚 AOMORI MIN-IREN

うちのメゴっこ vol.63

♥ name 碧人（あいと）くん

♥ age 6か月

100日をお祝いしてスタジオで写真撮影してもらいました。丑年にちなんで牛の着ぐるみを着ています。午前中は少しご機嫌ななめだったけれど撮影中に寝てしまい、スッキリしたのか午後にはパパを見て満面の笑みのところをパシャリ!!

（ファルマ弘前薬局／西沢　光）

私の三つ星★★★

オススメ　～おうち時間ver.～

透明なものに惹かれてます（レジン・プラバン・ビーズなど）

雲が浮かんでいるようなレジン作品

水芭蕉ブローチ

幻想的な光のランプ

レジンというものをご存知でしょうか？簡単に説明すると紫外線で固まる透明な液体でいろいろなものが作れる趣味です。最近では100円ショップでも材料は売っているので、あとはUVランプと型（かた）があればいろいろなものが出来ます。発端はYouTubeでビー玉くらいの大きさの球に雲が浮かんでいる作品を見て、自分でも作ってみたいと思ったことです。おかげさまで同じようなものを作ることがやっと出来るようになりました。ピアスなども好きなデザインを作れますし、最近ではプラバンやビーズも使ってブローチなどを作ったり、海で見つけたフジツボの殻を使ったランプなど迷走が始まっています。幻想的に光るライトはディズニーシーのセンターオブジアースを彷彿とさせ暗闇の中で一人悦に入っている姿を見て、子供が若干引いています。

（黒石薬局／大川誠也）

全日本民医連

第44期　第3回評議員会報告

全日本民医連第44期第3回評議員会が8月21日（土）22日（日）2日間、前回に引き続きweb上で開催され、全会一致で方針案が承認されました。また、今回の評議員会では初めて分散会も取り入れられ、熱心な討議が行われました。

今評議員会では第3回評議員会方針案を支持、補強する立場で32本の発言と7本の文書発言がありました。発言の特徴としては、今まさに全国各地が災害級の新型コロナウイルスに直面している中、助かる命をなんとしてでも助けるという意思統一のもと、それぞれの事業所が総力戦で対応している報告がなされ、新型コロナウイルスの罹患者を直接診療する事業所以外でも、外来や病棟、診療所、介護事業所、保険薬局で、全国の民医連の事業所が一丸となって向き合っている姿が共有されました。

理事会のまとめとして、地域の命を守るため、命の平等のため、職員が一丸となって困難を乗り越える、民医連綱領に団結し、まず診る、受け止める、全ての患者の受療権を守る、そういった民医連の輝きを全ての職員で確認し合いながら、そして我々の存在意義を確認しながら前に進んでいくことが大切であると、報告されました。

10月の総選挙では医療と介護、社会保障の充実と平和な日本への転換、いのちの平等を実現していく重要な機会として、全職員が権利を行使し投票行動に取り組むことについても確認されました。

（第44期 全日本民医連評議員／今　淳一）